

〈瑞浪市からのお知らせ〉

東濃厚生病院と土岐市立

現在、瑞浪市、土岐市及びJA岐阜厚生連では、将来にわたるこの地域の医療提供体制を確保することを目的に、東濃厚生病院と土岐市立総合病院の統合による新たな病院の設立に向けて準備を進めています。病院統合の必要性和これまでの検討状況などについてお知らせします。

現 状

両市に類似機能(急性期・救急対応)を持った 同規模の病院が存在

課 題

- ◆医師確保が困難(医師不足)
 - ・医師がいなければ安定的な医療提供ができない。
 - ・特に救急医療の提供が困難となっている。
- ◆急性期病床が供給過剰の一方、回復期病床が不足。
- ◆人口減少に伴う医療需要の減少



土岐市立総合病院

【設置者】 土岐市
【管理者】 JA岐阜厚生連

連携(救急当番)



東濃厚生病院

【設置者】 JA岐阜厚生連
【管理者】 JA岐阜厚生連



◆350床



◆270床

再 編

- 病院機能の再編
- 2次病院の1病院化
- 運営の一体化

新病院

【設置者】 瑞浪市、土岐市
【管理者】 JA岐阜厚生連

- ① 医療資源・人材の集約化により総合的な救急医療に対応
- ② 東濃中部における2次医療の完結
- ③ 3次医療との連携



総合病院の再編について

これまでの検討状況（経緯）

○地域医療構想における東濃中部の医療を考える研究会（H28.4～7）

（岐阜県、瑞浪市、土岐市、JA岐阜厚生連、土岐医師会）

○東濃中部の医療提供体制検討会（H29.9～R2.3）

（瑞浪市、土岐市、JA岐阜厚生連）

（*新病院の建設位置は中間地点を基本とし、経営手法は2市による公設、JA岐阜厚生連による民営とする。

*2市共同で新病院の設置主体となる公的機関を設置する。

*新病院設置までの間、2病院間で機能分担を早急に進めていく。

○土岐市・瑞浪市病院事業一部事務組合設立準備会（R2.7～）

（瑞浪市、土岐市、JA岐阜厚生連、土岐医師会）

（*新病院の建設候補地を決定。）

*負担割合などの最終協議。

○土岐市及び瑞浪市医療提供体制審議会（R2.11～R3.1）

（*土岐市肥田町浅野の土岐市有地を最適な候補地とする。付帯事項として、市民から寄せられた意見を十分精査し対応することを求める。

【建設候補地の位置図】



拡大図



【今後の動き】

新病院の具体的な建設整備や管理運営に関する事務を行う「東濃中部病院事務組合」を設立予定。

東濃厚生病院と土岐市立総合病院再編説明会の開催

- ◆日 時 3月13日(土) 13時30分から
- ◆場 所 瑞浪市総合文化センター 文化ホール
- ◆定 員 380名(先着順)
- ◆内 容 【第1部】 地域医療を取り巻く状況と両病院の現状について
東濃中部医療センター センター長 塚本英人 氏
【第2部】 病院再編の検討経緯について
瑞浪市長 水野光二

*新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で開催します。

◎問合せ 瑞浪市役所 健康づくり課 ☎68-9785



東濃中部(瑞浪市・土岐市)の 医療提供体制について



これまでに市民の皆さんから寄せられたご意見やご質問について、市としての回答をまとめましたのでお知らせします。

◎問合せ 瑞浪市役所 健康づくり課 ☎68-9785

■医療提供体制に関するご意見・ご質問について

Q なぜ、一病院化を進める必要があるのでしょうか。

少子高齢化に伴う人口の減少や医師の確保が困難な状況が続くこと（特に東濃厚生病院・土岐市立総合病院規模の病院では、専門医・高度医療のための医師の確保が困難）などの事由により、現状のままの形では、ともに経営が立ち行かなくなり、両市から総合病院が無くなることが懸念されます。

東濃厚生病院と土岐市立総合病院の一病院化は、地域の医療資源を集約し、より高度な医療サービスの提供と、将来にわたる地域医療の確保を目指すものです。また、瑞浪市が土岐市との共同設置に参画することで、瑞浪市が主体的に地域医療に関わることが出来る状況となります。

Q 一病院化により、現在不足している産婦人科や小児科はできるのでしょうか。

新病院は400床程度の規模を想定しており、より大規模な病院とすることで、現在、東濃厚生病院や土岐市立総合病院が有していない診療科の設置などが期待できます。現時点で明確にお示しできませんが、新病院の設置は、医師を派遣する大学の医局などに対して大きなアピールになるとともに、医師からも働く場として選ばれる病院となるなど、医師の確保につながるものと考えております。

Q 東濃厚生病院の後利用についてはどのようなのでしょうか。

市としては、多くの市民が受診している状況から、J A岐阜厚生連に対し、一次医療機能（クリニック機能）の継続および福祉・介護施設等としての活用を強く要望しているところです。

Q 遠くなると病院に行けなくなる、もしくは行かなくなる人が増えてしまうのではないのでしょうか。

病院までの通院が市民にとって大きな負担とならないよう、アクセス手段の確保について、しっかりと検討してまいります。今後は、病院の役割分担がより明確化されます。まずは、かかりつけ医（一次医療）での受診が大切になります。市としても、一次医療・二次医療・三次医療と総合的に地域医療を守っていくことが重要であると考えています。

Q 今後、結婚する若い人が住まなくなってしまうのではないのでしょうか？若い人の意見は聴かれますか？

新病院には、若い世代の方々が特に望まれる医療サービス（小児科・産婦人科等）も提供できるよう努めてまいります。パブリックコメントを通してのご意見とともに、直接ご意見をうかがえる場も持ちたいと思います。

Q 建設候補地は、どのような経緯で選定されていますか。

建設候補地の選定に当たっては、「東濃中部の医療提供体制検討会」において、土岐市立総合病院の現地での設置を適切とする土岐市と、両病院の中間地点での設置が望ましいとする瑞浪市・JA岐阜厚生連とで協議を重ねてきました。中間地点については、両市より候補地を出し協議する形としましたが、瑞浪市には土岐市境付近に400床規模の新病院を建設する適地がなかったため、やむを得ず候補地を出していません。

その後、令和2年3月に開催した「第9回東濃中部の医療提供体制検討会」で、新病院の建設候補地は両病院の中間地点を基本に調整することで合意に至り、新病院の設置主体となる公的機関の設置に向けた協議を行う組織（土岐市・瑞浪市病院事業一部事務組合設立準備会）を2市が協同で設置することも決定されました。この準備会において、病院事業適地選定等調査業務委託により、検討会で選考した地点のほかに両病院の中間点という条件のもと専門的な見地から建設候補地を挙げるよう求めたところ、洪水・浸水想定区域や敷地規模等の観点から、新たに別の候補地が全体的に優れていると示されました。

この調査結果をもとに準備会において検討を行い、新たに挙げられた候補地を建設候補地として選定しました。

Q 建設候補地は土岐市肥田町と聞きました。土岐市の病院ということになりますか。

土岐市内での建設予定となりますが、瑞浪市も土岐市とともに新病院の設置主体となります。病院の建設整備や管理運営に関する事務を行うために、瑞浪市・土岐市の両市が構成市となる「一部事務組合」を設置し、両市が合同で病院事業を行うこととなります。よって、土岐市立の病院ではありません。

Q ただでさえ人口減少が進む中で、総合病院が無くなることで魅力のない町になってしまうのではないのでしょうか。

総合病院の存在は、住民に対して大きな安心を与えるものだと思います。しかし、現状のままでは、両市から総合病院がなくなってしまうことも懸念されます。

新病院の設置により、市内には総合病院はなくなりますが、隣接する地域に現在の東濃厚生病院より、さらに充実した医療機能を持つ総合病院ができることで、市民の皆さんが安心して暮らしていける市になると考えます。

Q 救急車が足りなくなるのではと思うのですが、対策はできているのでしょうか。

現在、症状等によって対応できる市内外の病院に救急搬送は行っており、東濃厚生病院、土岐市立総合病院の輪番制で両市民の夜間救急医療等に対応しています。また、脳の疾患などは、土岐市立総合病院や県立多治見病院へ搬送する場合があります。

新病院の設置により、搬送先が現状より固定され、脳・心臓等の重篤な疾患に対しても迅速な対応が可能となります。また、現状では、県立多治見病院へ搬送されるケースの中にも、新病院設置後は、より近い新病院で治療が可能となるケースもあると思います。救急車については、適切に対応してまいります。

Q お店をやっていますが、病院が無くなり、山岡や駄知方面からの集客が少なくなってしまうとさらに厳しい経営環境となってしまいます。現在の総合病院以上の集客について検討されていますか。

新病院の設置までには相当の期間が必要で、それまでの間は土岐市立総合病院との間で機能分担を行いながら病院運営は行われるため、直ちに通院患者等が減ることはないと考えます。市はJA岐阜厚生連に対し、医療、福祉・介護施設等として活用していただくよう強く要望しております。